

自校の実情に合わせて、 学習評価の 充実に向けた 「一手」を考える

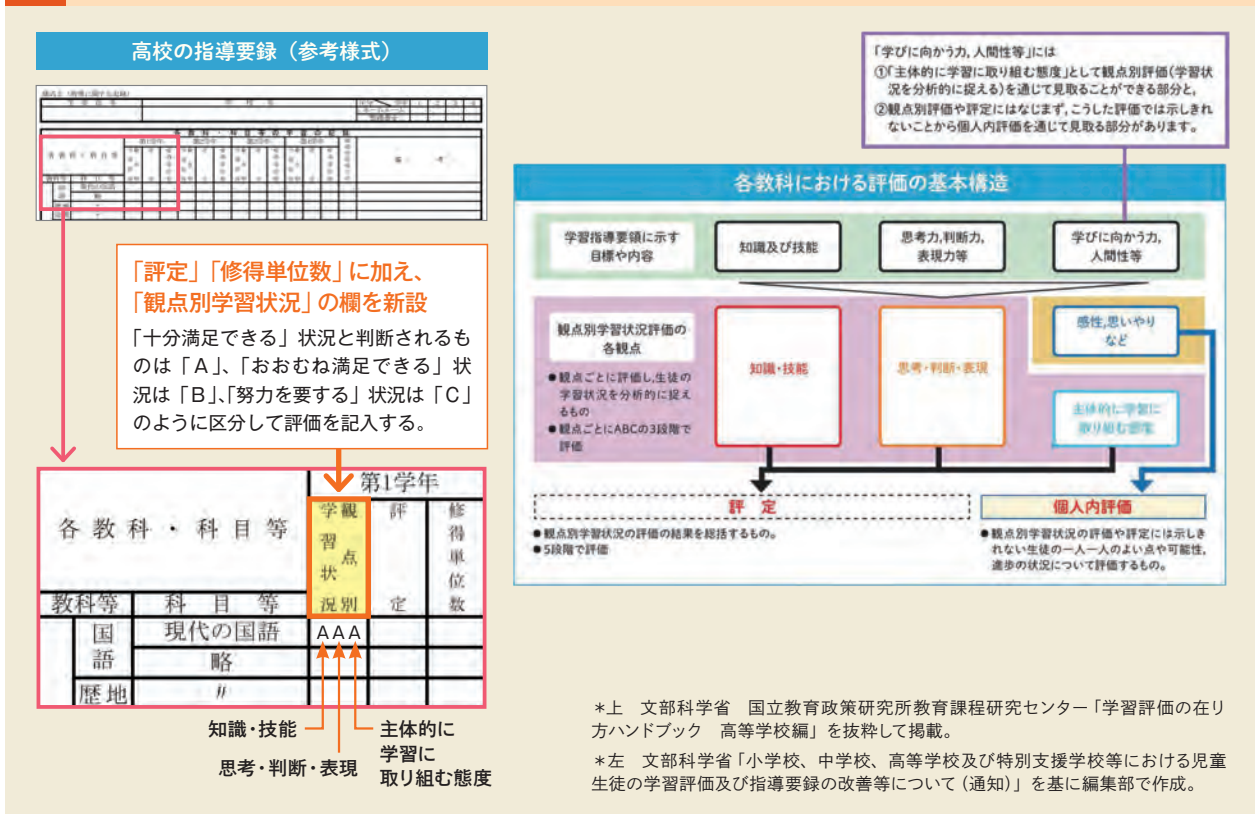
新学習指導要領の実施まで5か月余り。多くの学校にとって共通の課題と
なっているのが学習評価だが、その準備状況や課題の内容は学校によって異なる。
本特集ではまず、新学習指導要領で求められる学習評価の基本事項を押さえた上で、
各校が抱える課題とそれに対する「一手」を考える。

新学習指導要領の実施を 学習評価の充実の契機に

新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が3つの柱で整理されたことを踏まえて、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の観点も、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理された（図1）。そして、小・中学校と高校とでは、観点別評価の取り組みに差が見ら

れることを受けて、高校の指導要録にも、「観点別学習状況」を記載する欄が新設された。学習評価の改善の方向性は、生徒の学習改善と教師の指導改善につながるものにしていくことであり、学習評価のさらなる充実に向けては、自校の実情に合わせて、評価のあり方を見直すことが必要だ。学習評価の改善過程において、自校はどのような課題を抱えているのか、次ページで確認されたい。

図1 学習評価の基本構造と指導要録



自校が直面している、学習評価の改善過程における課題は？
「課題への一手」を参考に、本特集を活用いただきたい

1 学習評価の実践にあたって必要な教師のマインドセットをどう図る？

課題への一手

- 評定の根拠が定期考査の結果に偏重していた点を改善するため、学習評価に係る教務内規を、成績不振者に対するものを中心に改訂。 ▶ 〈実践事例1〉北海道札幌南陵高校 P.6
- 大学入試の合格ラインを評価の基準としていた教師の評価観を、目標に準拠した評価へと転換させる研修を実施。 ▶ 〈実践事例2〉宮城県仙台第三高校 P.13

2 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価する？

課題への一手

- 学習した様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求める「パフォーマンス課題」を実施し、「ルーブリック」で「思考・判断・表現」を評価するとともに、振り返りシートに見られる生徒の変容から「関心・意欲・態度」を評価。 ▶ 〈実践事例2〉宮城県仙台第三高校 P.10～11
- 「座席表型の日々の評価表」を使って生徒の授業態度を見取り、「主体的に学習に取り組む態度」の配点の50%を充当。 ▶ 〈実践事例3〉福岡県立香椎高校 P.15～16

3 観点別評価はいつ実施する？

課題への一手

- 単元または題材ごとに3観点の評価規準と評価方法をシラバスに明示。 ▶ 〈実践事例1〉北海道札幌南陵高校 P.8～9
- 各単元において、3観点のうちどの観点を、どのような評価規準で、どのような評価方法を用いて評価するのかを一覧化した「評価計画」を作成。 ▶ 〈実践事例2〉宮城県仙台第三高校 P.13

4 観点別評価を評定にどのようにして総括するか？

課題への一手

- 観点別評価を評定に総括する際の3観点の重みづけは、それぞれ30%から40%の範囲内で各教科で決定。そして、各学期、3観点それぞれをどのような学習活動を通じて、どんな割合で評価するのかを、各教科で定める。 ▶ 〈実践事例3〉福岡県立香椎高校（年間指導計画） P.14～15

連載コーナーで解説 ● 新課程レポート（評定への換算方法は？） P.35

【ポイント】評定への換算方法は、3観点を1:1:1の同じ比率で評価する方法、3観点の重みづけを変える方法に大別される。その上で、各観点の合計点や平均点で評定を出す方法、「A A Bなら5」「A B Aなら4」などと、A B Cの組み合わせによって評定を出す方法、さらに、A B Cの組み合わせではなく、自校の教育目標に照らし合わせていずれかの観点到重みづけをした評点換算表を作成する方法などがある。

「評価観の転換」、「パフォーマンス課題」、「ルーブリック」など、上記の課題に関連する学習評価のキーワードを体系的に理解する

識者解説



新学習指導要領で求められる学習評価の本質とその実践の要諦
京都大学大学院 教育学研究科 教授
西岡加名恵

- 1 新学習指導要領における学習評価の考え方 P.18～19
- 2 学習評価の方法の種類 P.19～20
- 3 パフォーマンス課題とは？ その設定のポイント P.20～22
- 4 ルーブリックとは？ その作成手順 P.22～23
- 5 学習評価計画の立て方 P.23